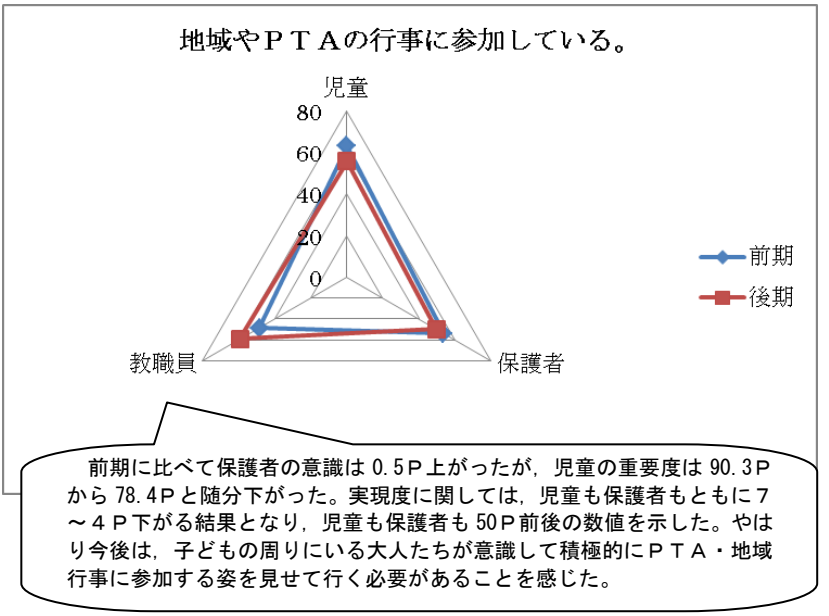
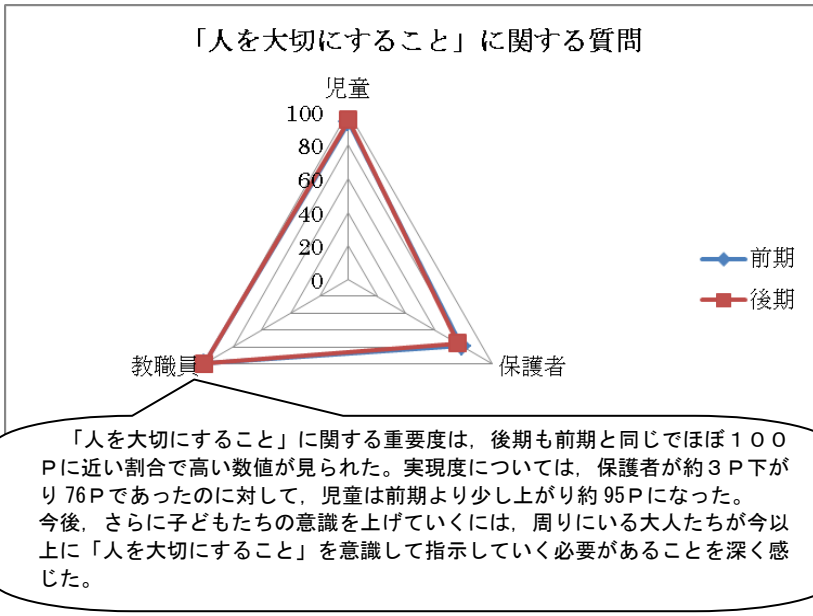
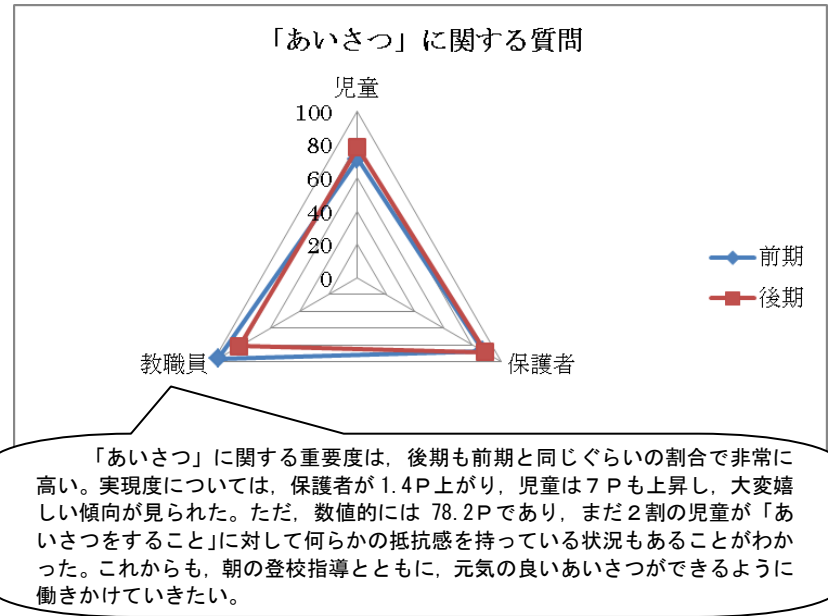
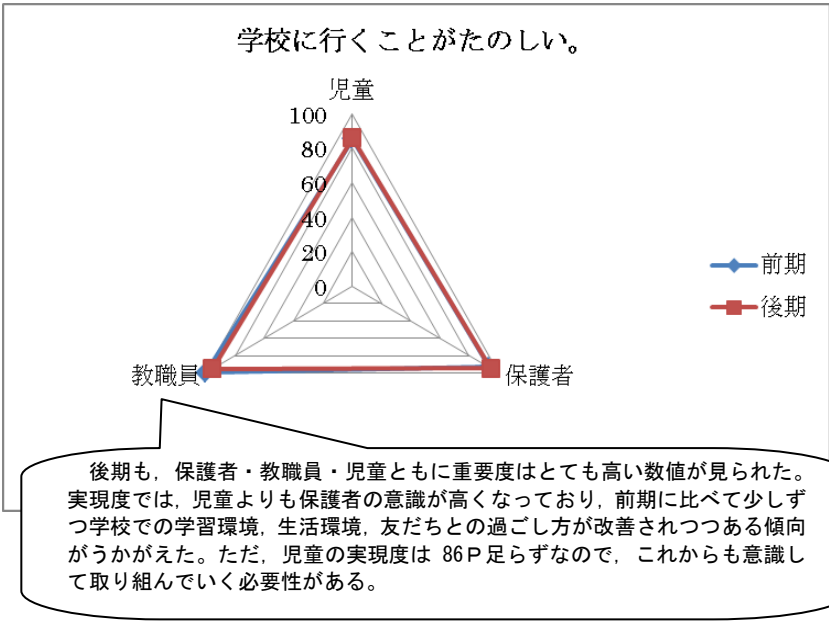
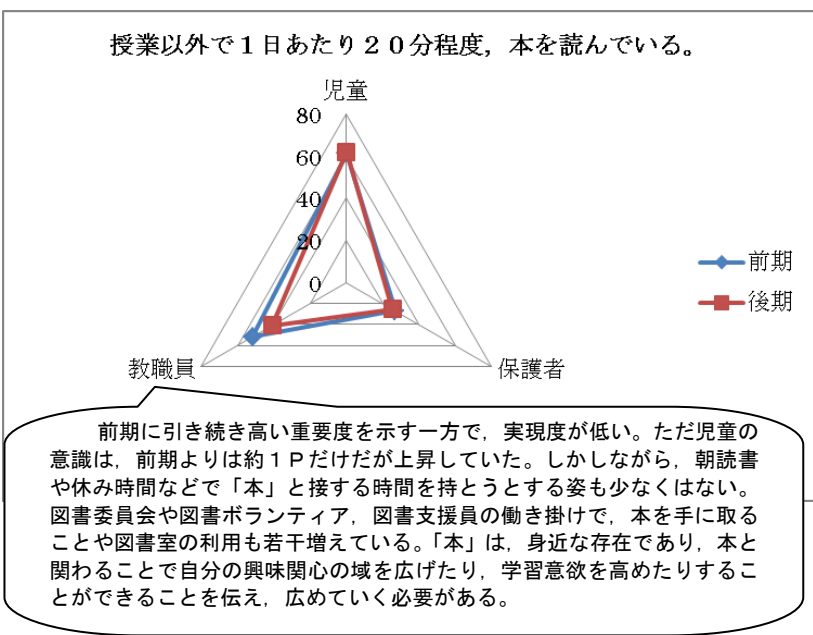
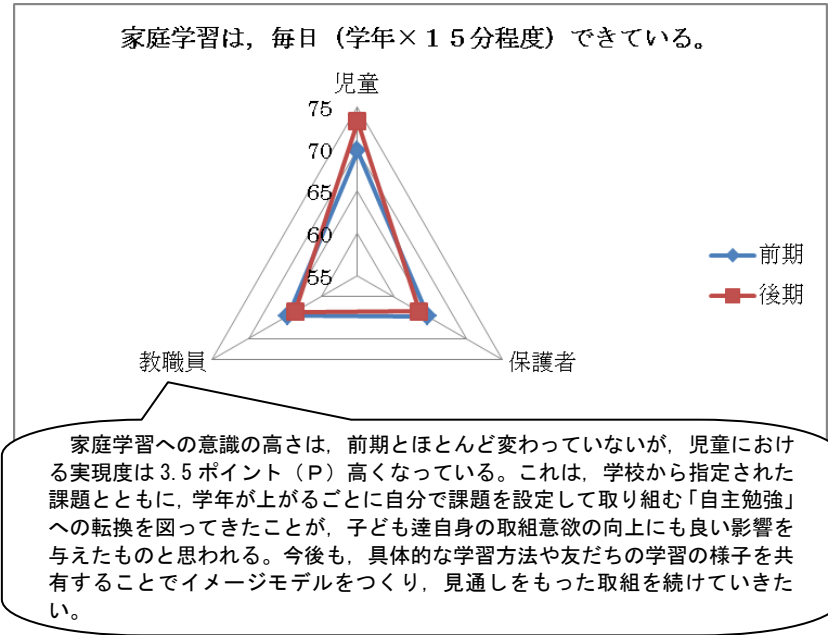


学校だより 3月特別号『学校評価（前期・後期の結果）を振り返って』

後期に実施した学校評価の結果をまとめましたので、お知らせします。グラフのポイントは実現度「よくできている」「できている」を合わせたものです。

実現度について「前期」と「後期」の比較をしました。



重要度の集計結果から

前期と比べて、保護者の重要度に対する関心は「地域やPTAの行事に参加している」の項目以外は引き続き高い関心を示していたが、児童の関心は全ての項目において0.6Pから11.9P下回っていた。重要度の結果は、「取組を進めてほしいという願い」の結果であるとともに、学校としても「大切にしていきたいこと」、「指導に力を入れていること」への表れであると認識している。今回の結果から、児童と保護者・教職員との思いの差を少しでもなくしていけるように働きかけをしていきたい。

実現度の集計結果から

前期と比べてみると、児童の実現度に対する意識は「地域やPTAの行事に参加している」の項目以外はすべて上昇している。特に「家庭学習」と「あいさつ」に関する項目においては、3.5～7Pも上昇していた。また「学校に行くことが楽しい」と「あいさつ」に関する項目においては、児童・保護者ともに上昇がみられた。ただ「人を大切にすること」と「一日20分程度本を読むこと」の項目においては、児童の意識は上がっているのに、保護者の子どもに対する意識は下がっている。この児童と保護者の意識のずれをなくしていく必要があると考えている。

重要度と実現度の結果から

「重要度」は、保護者の場合は「地域やPTAの行事に参加している」の項目以外は、前期とほぼ同程度に高い意識が見られたが、児童の場合は全体的に少し下がっていた。ただ「実現度」においては、保護者以上に児童の意識は全体的に上がっており、少しではあるが児童の前向きに改善しようという意識が見られた。今後は、前期と比べると大きな上昇が見られた「あいさつ」に関する項目ではあるが、まだ8割まで到達していない現状があるので「家庭学習」や「本を読むこと」、「地域やPTAの行事に参加すること」とともに、子どもたちに対して大切な意味を教え、働きかけをしていく必要があると考えている。